

Heroldo de HEL

N-ro 122

Decembro 2008

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

北海道エスペラント連盟

ĉe HOŠIDA Acuŝi

〒053-0844 苫小牧市

Miyanomori 2-18-18, TOMAKOMAI

宮の森町2丁目18-18

053-0844 JAPANIO

星田 淳 方

TEL-FAKS:0144-74-2539

Retadreso:hosidaacusi@kir.biglobe.ne.jp

Postgirkonto (郵便振替) : 02700-6-17075

*Sekretario: KAWAI Yuka

*事務局: 川合由香

N-ro 45, Simin-Katudo-Sapoto-Senta

〒060-0808 札幌市北区

Sapporo L-Plaza 2F, Kita 8 Nisi 3

北8条西3丁目札幌エルプラザ

Kita-ku, Sapporo, 060-0808 Japanio

市民活動サポートセンター レターケースNo.45

TEL-FAKS : 0126-62-4636

Retadreso : nordano@sea.plala.or.jp

*TTT-ejo : <http://www5d.biglobe.ne.jp/~hel/jp/index-j.htm>

[Enhavo/目次]

- 表紙、Enhavo/目次 P. 1
- La 95-a Japana Esperanto-Kongreso/tre privata raporto de kongresano kun infano/第95回日本エスペラント大会・極私的参加記/KAWAI Yuka/川合由香 P. 2
- La Nobel-Premio en la Kemio en 2008/2008年ノーベル化学賞/白濱 晴久 P. 4
- Kontaŭregima Esperanto-movado kaj kaŝita ombro en la historio 反体制エスペラント運動とかくされた歴史の暗部/HOŠIDA Acuŝi P. 6
- Mesaĝo de S-ro Koichiro Matsuura, Generala Direktoro de Unesko 国際言語年に関するユネスコ事務局長・松浦晃一郎氏の談話 (前半部分、Esp. -日本語対訳) P. 7
- Sama(supra)mesaĝo en lingvoj aina, japana kaj esperanta 上記談話 (アイヌ語、日本語、エスペラント 併記) P. 8
- "Kiu estas la instruisto de hokkajda gimnazio?" 高知新聞記事に出た「北海道の高校教師」は?/HOŠIDA Acuŝi P.11
- Adiaŭ, Samideano Toyokura, (豊倉さん、マルコ・ポーロの道を吹き渡ってますか)/HOŠIDA Acuŝi P.12
- エスペランチスト豊倉正吾さんを偲んで/後藤義治 P.14
- 「東方見聞録」を読んでみよう/後藤義治 P.15
- CXVII Ĉi tie oni priskribas la provincon Tibet/百十八話 そこはチベット地方という P.16
- [第2回委員会報告] Protokolo de la 2-a Komitata Kunsido P.20
- [編集後記/Redaktanto parolas ...]

La 95-a Japana Esperanto-Kongreso
: tre privata raporto de kongresano kun infano
第95回日本エスペラント大会・極私的参加記

KAWAI Yuka/ 川合由香

(Resumo) Mi partoprenis en la 95-a Japana E-Kongreso en la urbo Wakayama. Mi partoprenis en okazajo de E unufoje kune kun mia filo Hitomi 6-jaraĝa. Li estis ege bonvenigata de plenaĝulaj partoprenintoj. Kvankam mi tute ne instruis E-n al li, li ĝuis la kongreson ĝis sia propra nivelo. Mi esperas, ke la filo fariĝos E-isto en estonteco. Daŭre tenigi kaj naskigi nunan lian intereson pri E estas/os grava tasko por mi.

10月11日(土)~13日(月・祝)、第95回日本エスペラント大会に参加した。私は横浜市のInfanvartejoのhelpantoをもとに昨年の日本大会で発足した「子連れ参加友の会」の会長である。幼児を抱えて行事にも参加できず、Eの学習からも遠ざかってしまうのではもったいない。この世代のE-istoを支援しよう!というのが会の趣旨である。会の発足以降、折に触れてJEIの「La Revuo Orienta」などで「子連れ参加支援」を訴えてきた。そこで、まず隗より始めよ、との言葉通り、小学1年のひとり息子・晴(ひとみ)と2人で和歌山へ乗り込んだ。

LKKが本格的に始動した頃から、「子連れ向けにも使えるRipozejoの設置を」とお願いしてきた。LKKは快諾され、3日間を通して、会場内の1室を提供してくださった。室内のaranĝoは子連れ参加友の会が行い、おもちゃや絵本を持ち込んだ。そして、子連れ参加友の会のメールマガジンでは「お子様連れも安心してどうぞ」と呼びかけておいた。その反応はいかに?、というのが私の楽しみであり心配であった。

晴には、「エスペラントの年に一度のお祭りだよ」と説明。往路の飛行機の中で、とりあえず「Saluton」だけ教えた。「さるーとん、さるーとん、さるーとん・・・」。

会場到着。案にたがわず、晴は会う人ごとに歓迎された。しかし、照れてしまって「Saluton」が言えない。うれしいことに、親子での参加者がほかにもいた!京都のお母さんと3歳児・滋賀のお母さんと小学5年という2組。

初日夜はAmika Vesperoで、歌・オークション・地元のエスペランチストによる狂言「附子(ぶす)」などがあった。狂言では、Eで語られるセリフを小声で日本語訳しながら耳元で聞かせた。ただ日本語に訳せばいいのではなくて、小学1年生に解るような単語を選ばねばならない。晴は喜んで聴いていたが私はへとへとに。8時頃に抜け出して宿へ引き上げる。良い子は9時には寝ましよう(^^)。

2日目午前。私は「子連れ参加」「エスペランチスト九条の会」「SAT」「Pasporta Servo」と各種分科会に忙しい。晴は、私が分科会に出ているときは、その部屋にある使われていないホワイトボードで落書きをしていた。「SAT」分科会では「nur E」だと前夜に知って、あわてて作ったアンチョコを見ながら報告をした。そんなかあちゃんの姿は、晴にはどう映ったのだろうか・・・「感心」

? 「怪しい」?

分科会以外の時間はRipozejoでのんびりくつろいだ。北海道と比べるほうが間違っているのだろうが、和歌山は非常に暑かったので、やたらとペットボトルのお茶を買っては飲んでた。晴はあやとり・折り紙を楽しんでいた(保育所で習ったそうだ)が、小学5年生には物足りなかったようで、彼女は持参の電子ゲームをしていた。やって来るお子さんの年齢が判らないと、おもちゃの選択は難しい。一応、小学生が読めるザメンホフの話などの本もあったのだが。

2日目午後は国際言語年に関する講演会。私は興味を引かれたが、晴には酷なので、2人で和歌山城へ散歩に行った。好天で、天守閣から外を見た晴はゴキゲン。韓国からの参加者と途中ですれ違って挨拶を交わして名刺を交換した。後でよく見たらKEA 会長氏とKAEM役員氏だった。立ち寄ったコンビニではスイスからの参加者に「プリペイド携帯のカードを買いたい」と端末の操作方法を尋ねられて往生した。私は携帯電話なるものを持っていないのである。プリペイドカードの購入なんて、日本語でもしたことはない。が、汗をかきながらどうにか購入にこぎつけた。「Jenas.」「Tiel...」「Atendu kelke.」などと語彙の切れ端を総動員。晴がひとこと、「おかあちゃんの話、ホントに通じてるんだねー」。

2日目の夜はBankedo。LKKのお計らいで、晴にはお子様ランチ風のおかずと甘口カレーが出された。しかし、この辺から「行儀」の2字を忘れたのか、「おかあちゃん、茶碗蒸しちょうだい」「おかあちゃん、この鍋半分食べていい?」と次々と私の料理をせしめ、自分の分は「おなかいっぱい」・・・おばかである。もっとも私は平生からお子様料理を作らない母親なので、ハンバーグよりもウナギの卵とじに晴の食指が動くのも無理はない。気化したアルコールに酔ったのか、晴はだんだんハイになっていき、隣の席の若い女性にかわいがられてウキャウキャとはしゃぎだした。同席の皆さんに迷惑をかけてはならない、とはらはらして、「晴、おだり過ぎ!(調子に乗りすぎ)」「お椀ちゃんと持ってないとかっぱがす(ひっくり返す)よ」と再三注意するも、どこ吹く風。結局、私がお子様ランチと冷めたカレーを食べる羽目になった。晴のデザートにはプリンパフェが出た。しかし、子供のくせに甘いものが苦手な晴は食べない。実は私も甘いものはあまり好きではないし、ダイエット中でもあるのだが、残してはLKKに申し訳ないという一念で詰め込んだ。

残念だったのは、“まともな時間”に帰宅するために、3日目の昼には会場を出発せねばならなかったことだ。わがHELの星田淳氏が小西岳氏と共同でE訳なされた「HEIWAの鐘」を歌って実際に大きな鐘を鳴らす、というのを楽しみにしていたのだが、断念した。でも、翌日は学校がある。そのくらいは仕方ない。

新千歳空港に着いてようやく「終わった」という実感がした。「エスペラントやると変なヒトになっちゃうよ、おかあちゃんみたいに」と父親に吹き込まれていた晴も、結構楽しんでいたようだ。それもLKKはじめ好意的に接して下さった大人の参加者の皆さんのおかげと感謝している。参加者のなかには、大会後に、わざわざ郵送してEの絵本やパズルを贈って下さった方もいた。ありがたいことである。

「晴、来年もこういうお祭りに行くかい?」と聞くと、「行く!」と即答。おおっ!この答えが来年まで変わらないでいることを願っている。できれば再来年も、その先も・・・。(fino)

La Nobel Premio en la Kemio 2008

por la eltrovo kaj ekspluato de verda fluoreska proteino, GFP

2008年ノーベル化学賞

Haruhisa STRAHAMA 白濱 晴久



Osamu Shimomura

Marine Biological
Laboratory
Woods Hole, MA,
USA
naskig^{is} en 1928
en Kyoto



Martin Chalfie

Columbia University
New York, NY, USA
naskig^{is} en 1947
en USA



Roger Y. Tsien

University of
California
San Diego, CA,
USA
naskig^{is} en
1952
en USA

La premion gajnis tri doktoroj per la temo "La eltrovo kaj ekspluato de verda fluoreska proteino(GFP)". GFP estas unu proteino kiu fluoreskas verde sub ultraviola lumo kaj pro tio ĝi donas tre utilan ilon kiu post-sekvas iun molekulon en ĉelo. Nun GFP estas tre populara kaj necesa ilo por studado de biologio kaj medicino en la mondo.

Shimomura eltrovis GFP en unu meduzo *Aequorea victoria* (オワンクラゲ), elprenis ĝin kaj klarigis ĝian molekulan strukturon.

Chalfie sukcesis fluoreskigi GFP en interno de vivajo kaj montris ke ĝi povas esti uzbla por klarigi fiziologian fenomenon.

Tsien studis detale fluoreskmekanismon de GFP kaj ekspluatis manieron fluoreski ankaŭ en alia koloro ol verdo kaj faris kelkajn proteinojn kiuj fluoreskas flave, ruĝe kaj cetere.

Shimomura komencis lian studadon de bioluminesko unue pri marlampiro (*Vargula hilgendorffii*, ウミホタル) en Nagoya Universitato kaj li sukcesis elpreni puran luminesk-materion en nur unu jaro kvankam studentoj de Princeton Universitato ne povis sukcesi en tio malgraŭ ilia peno dum 20 jaroj. Lia tekniko de eksperimento estis eksterordinare lerta. Ni parolis tiutempe ke neniu povas imiti lian teknikon.

Princeton invitis lin kaj li ekstudis lumon de *Aequorea victoria* tie. La meduzo lumineskas verde en maro. Li kolektis 850,000 meduzojn kaj provis elpreni la lumineskan materion sed li multfoje fuŝis. Lumineska fenomeno ĝenerale okazas de reakcio inter lumineska materio kaj enzimo, sed ĉi tio estas diferenca. Li eltrovis ke la materio de meduzo lumineskas per kalcijono anstataŭ enzimo kaj li sukcesis apartigi la materion kiun oni nomis aequorin.

Nun aequorin lumineskas blue kvankam la meduzo lumas verde. Li daŭrigis studon kaj eltrovis ke la meduzo havas fluoreskan proteionon krome kaj ĝi fluoreskas verde akceptante lumon (t.e. energion) de aequorin. Li fine apartigis ĉi tiun proteionon kiu estas GFP.

La vivanta korpo kreiĝas el la proteinoj kaj tiel la proteinoj estas farataj per vivajo. Proteino estas alligajo de aminoacidoj kaj ĝi estas farata obeante la planon de geno. Ankaŭ GFP estas farata obeante la ordonon de geno, nome, troviĝas la geno faranta GFP-n.

Chalfie enmetis la genon de GFP en vivajon kiel ekzemple nematodon kaj lumineskigis en vivanta korpo. Nun kiam oni kunigas genon de GFP al la geno de proteino kiun oni volas esplori, ĝia fluoresko formiĝas en rimarkilon kaj oni povas montri, kie la proteino estas kaj kiel ĝi moviĝas. Ĉu la kancero plimultiĝis aŭ transiris? Kiel la nervĉelo rompiĝas en Alzheimer malsano? Kian vundadon havas la pankreatĉelo en diabeto? Ĉiuj estis esploritaj uzinte GFP-n. Do, multe da medicinaj problemoj estis jam esploritaj helpe de GFP.

La merito videbligi celitan proteionon estas eksterordinare granda.

Shimomura estis nur interesita pri luminesko de meduzo kaj tute ne sciis ke tio kreus novan kaj fortan metodon en studado de biologio kaj medicino. Estas tre grave ke nur pura scivolemo kaj senceda studado naskas la plej gravan rezulton.

La plej grava karaktero de GFP por uzo en studado --

- 1) GFP estas proteino kaj fluoreskas ĝi mem sen helpo de alia materio.
- 2) GFP povas esti farata en diversaj vivantaj korpoj helpe de alligo de GFP-geno en konvena geno.
- 3) Kiam GFP alligiĝis kun funkcia proteino, ĝi ĝenerale ne malhelpas originalan funkcion.

小林亜星が語った母の思い出

9月10日夜NHKのBS・Eで「わたし子どもだったころ 小林亜星編」が放映され、亜星は「母がエスベラントの仲間と会合中特高警察に踏み込まれるとさっと文書などをかくして窓から逃げた」と母の思い出を話していました。その頃聞いていた、という「インターナショナル」も歌ってくれましたから、当時「プロ（プロレタリア）・エス」と呼ばれた反体制エスベラント運動だったのでしょうか。

民族・国境の壁を破って「二つの国際語」で世界の人々の心をつなこうとするエスベラント運動に魅力を感じる反体制活動家は当時多かったようです。刑務所に入るたびに外国語を一つ学ぶ「一犯一語主義」を称した大杉栄はまずエスベラントから始めました。これに習ってか、獄中からの学習希望者が結構あったらしく1929年東京で開かれた第17回日本エスベラント大会では、これらの人にエスベラント書籍の差し入れをするため献金しようとの提案が「満場の賛成により」可決されています。この時代のエスベラント運動には左翼のプロ・エスと中立主義運動（左翼はこれをブル・エスと呼んだ）

の二系統がありました。はっきり別組織になっていたり、同じグループの中に混在していたり、地方によって事情はさまざまだったようです。

治安維持法の時代でした。当時の特高警察はあらゆる文化活動も監視しており、干渉も頻繁でした。札幌エスベラント会では先手を打って幹部の名で「赤色分子入会拒絶宣言」を出して警察などに通知。特高警察官と打ち合わせて「警察で必要な報告はこちらから出すから会員個人に

にいた頃やつたが治安維持法で投獄された」とのこと、エスベラント大会に来てもらったり、文通したりで当時の話を聞きました。その人は、函館で非合法機関紙「戦旗」頒布の件で投獄され、その後当局の監視を受ける「元思想犯」だった浅井喜一郎さんです。当時苦小牧の老人ホームで暮らしていました。

思想犯を長田野（福知山）で訓練、ボルネオへ島流し

反体制エスベラント運動とかくされた歴史の暗部

星田 淳

(北海道エスベラント連盟委員長)

対する事情聴取、呼び出しなどは一切しない」ことを約束させました（実は時々破られたのですが）。各地のほかの地方会でも警察への対応にいろいろ苦労があった様子です。

「マレー語（インドネシア語）を思い出そうと図書館から借りた本を返し、次に昔勉強したエスベラントをまた始めたい」とのハガキが連盟に来たのは1978年ごろでした。マレー語は戦争中ボルネオにいたので、エスベラントはその前函館

浅井さんの思い出と、関西エスベラント連盟（当時）の宮本正男さんや治安維持法犠牲者国家賠償請求同盟の調査で、かくされた歴史の暗部が次第に見えて来ました。

1942年東条内閣が極秘の閣議で「思想犯前歴者の南方占領地への島流し」を決定。当初フィリピン、ミンダナオ島を予定し、44年5月ごろ候補者を集めて京都府長田野（現福知山市）で合宿訓練が行われましたが戦況悪化のため中止されました。

た。ところが程なく北ボルネオへの派遣が決まり、7月ごろ第1次隊（図南奉公義勇隊）の1人として下関を出港、シンガポール経由でボルネオへ。

現地では「大和農場」を現地人を使って経営していたのですが「空きっ腹を抱えて」いたとか、順調ではなかった様子、現地人とのトラブルなどで殺された人もあり敗戦後帰国できたのは半数の15人、あとは戦死、戦病死とされています。（実際は、脱走、現地人との結婚定住、現地人による殺害などがあったのですが）

第2次隊は13人派遣されましたが44年10月マニラ湾で潜水艦攻撃を受け沈没、生還者は4人。第3次は募集は行われたが実行されませんでした。

当局の機密書類に「思想犯は内地に生きて帰さないように」とあり状況によっては殺してしまうはずだったのですが、敗戦で実行できなかったようです。

第1次隊30人のうち北海道出身者は5人、全員生還。このうち2人と当時の国家賠償請求同盟北海道支部の責任者がエスベラントの仲間で、私との連絡を経て史実の究明が進んだことに不思議な縁を感じています。

Mesaĝo de S-ro Koichiro Matsuura, Ĝenerala Direktoro de Unesko, pri la celebado de la Internacia Jaro de Lingvoj 2008 (novembro, 2007)

国際言語年に関するユネスコ事務局長・松浦晃一郎氏の談話

(前半部分、E s p. -日本語対訳)

La jaro 2008 estas proklamita Internacia Jaro de Lingvoj fare de la Ĝenerala Asembleo de Unuiĝintaj Nacioj. Unesko, al kiu oni konfidis la taskon kunordigi la agadon por la Jaro, pretas plenumi sian rolon kiel gvida aganto.

La Organizaĵo estas plene konscia pri la decida graveco de la lingvoj por la multaj defioj, kiujn la homaro devas alfronti dum la venontaj jardekoj.

La lingvoj fakte estas nepraj por la identeco de la homaj grupoj kaj individuoj kaj por ilia paca kunezisto. Ili estas strategia faktoro por antaŭeniri al daŭropova evoluigo kaj harmonia rilato inter la tutmonda kaj la loka.

La lingvoj havas kernan gravecon por atingi la ses celojn de Edukado por ĉiuj (EP?) kaj la Jarmilajn Evoluigajn Celojn (JEC) aprobitajn de Unuiĝintaj Nacioj en 2000.

Kiel faktoro de socia integriĝo, la lingvoj ludas strategian rolon en la forigo de la ekstrema malriĉeco kaj malsato (JEC 1), dum kiel kolonoj de alfabetiĝo kaj lernado de kapabloj por la vivo ili estas ankaŭ nepraj por atingi universalan unuanivelan edukadon (JEC 2). La batalo kontraŭ HIV/aidoso, malario kaj aliaj malsanoj (JEC 6) devas utiligi la lingvojn de la koncernaj homgrupoj por trafi ilin, kaj la konservado de lokaj kaj indigenaj scioj kaj lertoj strebe al naturmedia plutenoblo (JEC 7) estas kerne ligita al lokaj kaj indigenaj lingvoj.

Plie, la kultura diverseco estas intime ligita al la lingva diverseco, kiel indikite en la Universala Deklaracio pri Kultura Diverseco de Unesko kaj ĝia Ago-

2008年は国際連合総会にて「国際言語年」と宣言されました。ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）は本言語年にあたりその活動を調整する役割を担い、先導者としての役割を果たすつもりです。

ユネスコは、人類がこの先数十年にわたって直面せざるを得ない数多くの課題に対して、言語が決定的に重要だということを深く認識しています。

事実、諸言語は人々の集団や個人のアイデンティティ（自己同一性）と平和共存にかかせません。諸言語は、世界と地域とが調和を保ちつつ持続的発展をとげるための戦略的な要因をなしています。

諸言語は「万人のための教育」で掲げられている6項目の目標（*1）と、国際連合が2000年に採択した「ミレニアム開発目標」（以下、「ミレ目標」と略す）（*2）を達成するために最大限に重要です。

諸言語は社会の統合の要因として、極度の貧困と飢餓を撲滅する（ミレ目標1）ためには戦略的な重要性を持ち、また普遍的な初等教育を達成する（ミレ目標2）ためには識字、学習と生活力を身に付ける上での柱となります。HIV/エイズ、マラリア、その他の病気のまんえんと闘う（ミレ目標6）ためには、直面している人たちが使う言語によることが必須です。そして自然環境の持続可能性を確保する（ミレ目標7）ために、現地のそして先住民の知恵と知識とを保護することは現地と先住民の言語に密接に結びついています。

さらに、文化の多様性が言語の多様性と密接に結びついていることは、文化の多様性に関するユネスコ世界宣言（*3）とその行動指

plano (2001), la Konvencio por la Konservado de la Nemateria Kultura Heredajo kaj la Konvencio pri la Protektado kaj Antaŭenigo de la Diverseco de la Kulturaj Esprimoj (2005).

針 (2001年)、無形文化遺産の保護に関する条約 (*4)、文化的表現の多様性の保護と促進に関する条約 (2005年) に示されている通りです。

Mesaĝo de S-ro Koichiro Matsuura(*1) en tri lingvoj aina, japana, kaj esperanta / 国際言語年に関するユネスコ事務局長・松浦晃一郎氏の談話 (前半) (アイヌ語、日本語、エスペラント 併記)

YOKOYAMA Hiroyuki/横山裕之

(この部分は別掲の Esp. - 日本語対訳 に 対応しています。アイヌ語になると表現がどう変わるか、注意してください - La red.)

La aŭtoro montras la mesaĝon en tri lingvoj aina(=ajnua, el artikolo en AinuTimes), japana kaj esperanta. Por traduki ainan oni devis multe modifi la originalon pro manko de modernaj kaj abstraktaj vortoj en la aina. Tamen, tial la legantoj havas ŝancon reekzameni la signifon de tiaj vortoj, ĉu ne?

La aŭtoro havis ŝancon paroli pri ĉi tiu mesaĝo per la ainlingva teksto, kvankam mallongigita por 5-minuta limtempo, en ainlingva oratora konkurso okazinta la 15an de novembro, 2008, en Mukaŭa (Mukawa), Hokkajdo. Li akiris honoradon "Elstara". Gratulon!!! --- La red.

このユネスコ事務局長談話のアイヌ語訳の原稿を元に、制限時間5分あわせるために加筆修正したものを、平成20年11月15日(土)に鶴川町で実施された「アイヌ語弁論大会・イタカンロー」で発表して、おかげさまで優秀賞を受賞しました。

この談話のエスペラント版と日本語訳は、日本語エスペラント学会のサイトにあります。

La japana versio troviĝas en la retejo de Japana Esperanto-Instituto (JEI):<http://www.jei.or.jp/unesko/lingvojaro.htm>
アイヌタイムズ第44号 (2008年4月7日 アイヌ語ペンクラブ発行) 4 ページ~8 ページ及び、

La 44-a numero de AinuTimes, eldonita de Ainugo-pen-kurabu en la 7-a de aprilo 2008, p.4 p.8, kaj,

アイヌタイムズ第44号日本語版 (2008年7月22日 アイヌ語ペンクラブ発行) 1 ページ~3 ページから抜粋しています。

japana versio de la 44-a numero, eldonita en la 22-a de julio 2008, p.1 p.3, estas citita.

* 註: ここに記した原稿のユネスコ事務局長の談話の部分は、一字一句訳するのが非常に難しく、かなり頭をひねってアイヌ語的に言い換えたり省略したりして、一番最初の原文からかなり変わったものとなっています。

Yunesuko or ta "Kokusai-gengo-nen" oruspe an

ユネスコで「国際言語年」の話がありました

UNESKO publikigis parolon pri la Internacia Jaro de Lingvoj.

2007 pa 5 cup 16 to ta, Kokusairengou-dai61kai-soukai an ruwe ne.

2007年5月16日に、国際連合第61回総会がありました。

En la 16a de majo 2007 okazis la 61a Ĝenerala Asembleo de

Unuigintaj Nacioj (UNO).

Mosir epitta gengo hene bunka hene uwesinnayno oka korka, usa usa a=ukoeraman yak pirka, sekor Kokuren-soukai yaynu kor, 2008 pa "Kokusai-gengo-nen" sekor rekore ruwe ne.

国中で言葉やら文化やらそれぞれ違って存在しますが、それぞれ(言葉や文化について)わかり合えるとよい、と国連総会は考えて、2008年を「国際言語年」と名づけたのでした。

En la mondo troviĝas diversaj lingvoj kaj kulturoj, kaj laŭ penso de Ĝenerala Asembleo de UNO estas bone, ke oni komprenigu pri ĉiu lingvo kaj kulturo. Tiam la Asembleo nomis la jaron 2008 'la internacia Jaro de Lingvoj'.

2007 pa 11 cup ta, Yunesuko-zimukyoku un sapanekur Matuura Kōitiro(*1) ispa Kokusai-gengo-nen ek hi eyaykopuntek kor ene hawean hi; "C=utari Y unesuko (Kokusairengou-kyouiku-kagaku-bunka-kikan) anakne, ne Kokusai-gengo-nen or un usa okay pe orta ikasuy-as ka ki, ikaspaotte-as ka ki k usu ne na.

2007年11月に、ユネスコ事務局長の松浦晃一郎氏は、国際言語年が来ることを喜びつつ次のように話しました; 「私たちユネスコ(国際連合教育科学文化機関)は、この国際言語年の諸事において手助けしたり、指令を出したりするつもりですよ。

En novembro 2007, s-ro Kouičiroo Macuura, Ĝenerala Direktoro de Unesko, ĝojis pri venonta Jaro kaj diris jene: "Ni, UNESKO (Eduka, Scienca kaj Kultura Organizo de UNO), volas helpi kaj ordoni diversajn aferojn pri la Jaro de Lingvoj.

C=utari anakne, gengo ne manu p sino a=eyam kuni p ne hi pirkano c=eraman wa oka=as ruwe ne.

私たちは、言葉というものが本当に大切なものであるということをよく理解しています。

Ni bone konscias, ke lingvo estas tre grava ajo.

A=utari sinen sinen, a=kor itak sinnayno an kuskeraypo, pirkano sinna uwekarpa oka, sinna urespa oka ruwe ne.

私たちは一人一人、持っている言葉が違っているおかげで、きちんと違った集団が生まれ、違った暮らしが生まれます。

Naskiĝas regule malsamaj grupoj kaj salsamaj vivoj, dank' al tio, ke lingvo, kiun ĉiu havas, estas malsama kompare kun aliaj.

A=kor itak ani ene usatoyneno oka=an hi kusu, oya kur sinnayno an yakka a=ramuosma kor turano uwepirka=an easkay pe ne ruwe ne.

私たちは言葉によってこのようにめいめい違っているのです、他人が違っていてもそれを認めつつ一緒にお互いの力で幸せになれるものなのです。

Ĉar tiel ni estas malsamaj reciproke pro la lingvo, eĉ se aliaj homoj estas malsamaj, ni povas vivi feliĉe, laŭ la maniero, ke ni akceptas tion kaj kunlaboras.

Sine gengo ye utar moyo yakun, ewen hi ka an.

ある言葉を言う人が少なければ、それで損をすることがあります。

Se homoj, kiuj parolas iun lingvon, estas malmultaj, ili povas perdi per tio.

Ne gengo ye utar naa poronno an kuni a=kasuy yakun, ne utar a=epirkare ka ki, utura uwepirka=an ka ki nankor kusu, iki=an ayne, sino wenkur anak isam nankor.

その言葉を言う人たちがもつと多くなるように私たちが手助けするならば、それ

によってその人たちに得をさせもして、私たちは一緒に得をしもするでしょうから、そうした結果、ひどい貧乏人はいなくなるでしょう。

Se ni helpas por tio, ke homoj, kiuj parolas la lingvon, fariĝu multaj, ili gajnas pro tio kaj ni gajnas kune. Tial ne troviĝos tre malriĉaj uloj.

Ora, syotou-kyouiku mosir epitta a=pirasa kuni, kampinuye ka kampinukar ka pirka p ne wa, gengo ani usa okay pe a=i=epakasnu kuni p ne ruwe ne.

また、初等教育を世界中に広げるために、字の読み書きは重要なもので、言葉によっていろんなことを私たちは教えるべきなのです。

Kaj grava estas legado kaj skribado de litero por disvastigi elementan edukado en la mondo, tial per la lingvo ni devas instrui diversajn aferojn.

HIV / Eizu, Mararia, usa oka siyeye ki utar a=tusare kuni, ne utar kor itak ani ukoysoytak=an yak easir ki.

HIV/エイズ、マラリア、いろいろな病気をしている人を治すために、その人たちの言葉を使わなければいけません。

Por kuraci malsanulojn pro HIV/aidoso, malario kaj aliaj diversaj malsanoj, oni devas uzi iliajn lingvojn.

Sizen-kankyoo a=epunkine kuni, usa oka mosir ta oka utar neya senzyuumin utar neya, pirkarenkapi a=kocanup yak pirka. Kusu, kor itak ne yakka a=eyam kuni p ne ruwe ne.

自然環境を大事にするために、いろんな土地にいる人々や先住民たちの考えを参考にするとよいです。だから、彼らの言葉も大事にするべきなのです。

Por zorgi pri la natura medio, bone estas, ke oni konsultu ideon de diversaj lokuloj kaj indigenaj etnoj. Tial oni devas zorgi pri iliaj lingvoj.

A=kor gengo poronno an yakun, a=kor bunka ka poronno an sekor an pe anakne, kampi ka ta a=nuypa wa oka.

私たちの言葉がたくさんあるならば文化もたくさんあるということ、書類に書かれています。

En diversaj paperoj skribiĝas, se troviĝas multe da lingvoj, troviĝas multe da kulturoj.

'Bunka no tayoosei ni kansuru Yunesko-sekai-sengen to sono koodoo-sisin' (2001 pa), 'Mukei-bunka-isan no hogo ni kansuru zyooyaku' (2003 pa), 'Bunkateki-hyoogen no tayoosei no hogo to sokusin ni kansuru zyooyaku' (2005 pa).

『文化の多様性に関するユネスコ世界宣言とその行動指針』(2001年)、『無形文化遺産の保護に関する条約』(2003年)、『文化的表現の多様性の保護と促進に関する条約』(2005年)。

'La Universala Deklaracio pri Kultura Diverseco de Unesco kaj ĝia Agoplano (2001)', 'la Konvencio por la Konservado de la Nemateria Kultura Heredajo (2003)' kaj 'la Konvencio pri la Protektado kaj Antaŭenigo de la Diverseco de la Kulturaj Esprimoj (2005)'

注(*1)「松浦晃一郎」の表記:表題(titolo)はJEIのホームページにある、ヘボン式ローマ字による(本人が使っているものと思われる)。

アイヌ語文の中では「訓令式を原則とする」とのことなので そうしたが、最近いろいろの意見があり乱れている様子です。服部四郎氏の新日本式ですと、Macuura Kōicirō となってエスペラント式に似た形になります。— La red.

” Kiu estas la instruisto de hokkajda gimnazio?”
el srtikolo sur Jurnaloo Kooči(Kōti)

高知新聞記事に出た「北海道の高校教師」は？

・ HOSIDA Acusi

次の新聞記事について友人から問い合わせが来ました。9月15日の高知新聞記事。この「北海道の高校教師」はだれでしょうか。

(学芸欄コラム)「閑人調」世界共通語(9.15 高知新聞朝刊)

数年前、京都へのついでとかで、娘の北海道の友達のご夫妻がこの山里をお訪ね下さった。高校教師というご主人は日本エスペラント協会の活動にも参加し、「部活にも取り入れ、生徒たちもとても熱心です。案外面白いです。あなたもいかがでしょう」とのこと。しかし私は「もうこの年で」と後ずさりした。数日後のはがきには三、四行のローマ字風のあと「以上が先日お話ししましたエスペラントで、ご親切への心からのお礼です」とあった。その半月後、思いがけない外国便が届いて、ブルガリアからの女性からとはわかるがそれ以上はさっぱり。そこで「もしやこれは」とさっそく北海道の方へ。

折り返しご返事には「いや感動しました。まさに世界語エスペラントです。インターネットで”手の不自由な人に便利な食器”のことを知り、なおくわしいカタログ等をとのお願いです」とあって私もびっくり。そしてその返事はまた先生の御厄介に。

そこで決心し、以後は辞書と、ご指導を得ての学びに励んだ。意外とやさしかったこともあり、やがて何とか文通ぐらいはかなうようになって、その女性との交わりは今も楽しく続いている。(車)

この「北海道の高校教師」はどなたでしょうか？ と きかれても判るはずはない。道内のメールアドレスのある教育関係者に問い合わせたら1週間たたぬうちに返事が来ました。(H)

星田様 Saluton! SESの池田です。高知新聞の件の高校教師は、私です。高知の北川村の新田義治さんの自叙伝の文章の一部です。妻の同級生の父上です。 池田宏基

池田先生、我々の知らぬ間にエスペラントによる国際交流を四国とブルガリアに広げていたのですね。そのいきさつを書いていただきました。(H)

10年程前、四国でエスペラントの日本大会に参加の折、高知の妻の知人の陶芸家を訪ねました。父君(新田義治氏)は交通事故のリハビリをかね、陶芸で聖書に関する人物像を製作しておりました。このときエスペラントの話をして後で資料を送る約束をしました。何回かの手紙のやり取りの後、ブルガリアの女性を文通相手に紹介しました。ザメンホフ訳の聖書を10年間毎日2ページづつ読まれ自由に手紙が書けるようになりました。すべて独学です。聖書は子供のころより親しんでいたようです。

この聖書をエスペラントで読んで今までの疑問が解消し、感謝されました。そ

れは、ペテロの第一の手紙1-22に「キリストは罪を犯さず、その口には偽りがなかった。」しかし、彼は、ヨハネによる福音書7-8、と10においてキリストが兄弟たちに「私はこの祭りには行かない」と明言されながら「しかし兄弟たちが祭り行ったあとで、イエスも人目にたたぬようにひそかに行かれた。」とあるのに気付いて大変なショックを受け、以来40年回惱み続けたそうです。

しかし、この問題がザメンホフのエスペラント訳の聖書を読んで一挙に解決したそうです。それは電撃のように目の中に飛び込んできた「ankorau」の一言だそうです。

イエスは「まだ行かない、まだ準備が整っていない」となっている。この一文で永年の疑問が解消し喜ばれました。

今、83歳でお元気ですが、昨年奥様をおなくしになりお気の毒に思います。昨年、自叙伝をお書きになりました。その一部が四国新聞に載った記事です。彼は、障害者自立の食器「らくらく食器」を発明し新案特許を得ています。NHK のラジオ深夜便等にも出ています。

Adiaŭ, Samideano Toyokura,
Ciam fervora studanto per Esperanto
(豊倉さん、マルコ・ポーロの道を吹き渡ってますか)

HOSIDA Acusi

Nia bedaŭrata plej aĝa samideano Toyokura(elparolu:tojo-) estis ja energia studanto per nia lingvo pri grandaj verkoj. Jen por memoro pri li el korespondajoj —.

十月末に亡くなられた豊倉さんから最後にもらった手紙は九月一日付けの「東方見聞録」の内容についての質問でした。(ハガキはその後も来ましたが)ここ数年の文通から少し思い出してみます。

(2008.9.1, 豊倉→星田)

毎日お暑い日がつづきますがいかがお暮らしか —。つれづれなるままに昨年の暮れから(「東方見聞録」を)ぼつぼつ始めたのが、どうやらあの蒙古平原を越えて東海へ出て参りました。そのうち Akbaluk なる地名が出て参りましたが — 疑問を生じお伺いする次第です。

(230 頁第 109話と 231頁の盧溝橋の絵のコピー同封)

(2008.9.3, 星田→豊倉)

コピーされた橋の絵、盧溝橋だな、とすぐわかります。4年前、北京での世界大会のとき Ekskurso で見てきました。

Marko Polo もこの本で書いていますが、橋がそのまま美術品、現在では歴史的な文化財ですね。

“Akbaluk” は、あのページの脚注によるとモンゴル・トルコ語で「白い街」のこと、現在の河北省の Hengding とされていますが、手元の地図では見つからない。保定は現在の発音では Baoding. 中国に聞いてみましようか。去年横浜 UK で会った S-ro Bill Mak, 北京大学で仏教史、東洋言語学を研究していたが、何かヒントをくれるかも。

(2008.9.18, 星田→豊倉)

この前書いた北京大学の Bill Mak から返事が来ました。おもしろい内容です。
以下、そのコピーです。

件名 : Re: "Akbalyk" ?? 日時 : 2008 年9 月17日 3:54
Kara S-ro Hoshida, pardon por la malfrua respondo pro mia vojaĝado.
Dankon por via demando. La verkajo de Marko Polo estas tre interesa.
Nuntempe inter fakuloj estas opinio ke tamen Marko Polo neniam vizitis
Ĉinion kaj la informo en ties verkajo estas nur onidiro.
Bedaurinde, mi ne havas tiun ekzaktan libron ĉe mi kiun vi menciis
kaj la esperantigitaj/transliterigitaj nomoj ŝajnas al mi ne
korektaj. Sen mapo kaj korektaj nomoj estas malfacile diveni.
Tamen G`og`u ŝajne al mi estas 趙州, sed la ĉina nomo estas
Zhaoxian 趙縣 ne Zhouxian. En tiu ĉi urbo en Hebei-gubernio (河
北; malnove: Ho-pei) .
Akbalyk ŝajnas al mi ne estas en Ĉinio nun sed en Kazaĥstan?
<http://www.maplandia.com/kazakhstan/north-kazakhstan/akbalyk/>
Certe vi povas trovi la ghustajn informojn en ĉiuj japanaj libroj
kiuj rilatas al tiu ĉi temo. Interalie, vi povas trovi la nomojn de
la urbojn tie ĉi:
http://en.wikipedia.org/wiki/Cities_along_the_Silk_Road
Amike salutas, Bill Mak

私も聞いたことがあります、
「Marko Poloは自分で中国までは行っていない、
聞き書きを編集したんだ」と言う説を Bill も紹介していますね。それにしても、
あの本なかなかくわしく写実的な内容です。

230頁の地名 Goju は 趙州 だろうと 彼は推定していますね。今は
"Zhaoxian 趙縣 ne Zhouxian" で 地図で見ると 河北省の省都 石家荘の近く
にあります。Marko の描写にあるような街かどうか、知りたいものです。

どうも変なのは Akbalyk なんてモンゴル・トルコ語の地名が何でここに出て
くるか、です。「聞き書きを編集した」疑いをかけられるところでしょう。とこ
ろがこの地名、驚いたことにインターネットで検索するとでてくる、と彼が知ら
せてくれました。

経度、緯度も出ているので地図で調べると Kazaĥstan の Isim 川のほとりの
Sergeevka と、その西の Timirjozevo のあたりに なります。Isim 川は北へ
流れてオビ川に合流し、北極海へ入ります。ここはシルクロードからは遠く離れ
ており、なぜこの地名がここに出るか、わからない。

先日 J E I の評議員会、理事会で「だれかあの本を研究している人はありませ
んか」と聞いてみたが、返事はありませんでした。

(2008.9.20, 豊倉→星田)

Marko Polo は時々不思議な話を私の九六の頭に持ち込み悩ませます。今日は
241p. 夢のような話です。女性に関する ---

[Komentas HOSIDA]

これは、後藤さんが対訳で出している百十八話です。読んでください。

エスペ란チスト豊蔵正吾さんを偲んで

札幌エスペラント会 後藤義治

エスペラントをこよなく愛し、「エスペラントを知ったお陰で老後がこんなに楽しく過ごせるのは幸せだ。」の口癖だった豊蔵さんが、10月30日の朝亡くなられた。96歳だった。豊蔵さんは1912年7月30日、6人兄弟の3男として札幌で生まれた。この日は明治天皇が崩御された日でもあったし、日本が世界に情報を送信できる、国際無線電信条約を調印した月でもあった。隣国では中華民国が成立し、孫文が臨時大統領に就任した年だ。北に目を向けるとレーニン率いるボルシェビキが非合法ながら5月5日に「ブラウダ」を発刊している。

昨年の秋、読み終えたハムレットを持参し、何気なく「兵隊が長すぎた」と漏らしておられた。この時期はオバマ次期アメリカ大統領が勝利宣言の結びで「彼女(母親)は我々の港が爆撃(真珠湾攻撃)され、専制が世界を脅かした(ナチドイツ)時代に生きてきた。」と言ったように、同じ時代を生きてきた方だ。32歳の春二人の子供と妻を残し、千景の鉄道連隊に工兵として入隊し、現北朝鮮の平安北道宣川で毎日12時間に及ぶ鉄道敷設に従事していた。終戦を迎え戦争捕虜としてモスクワ近郊で4年間ラーゲリを経験している。後で読んだハンガリー兵のラーゲリ生活を活写した「Vikutimoj」ではずいぶん具体的な教訓を頂いた。帰国後は復職され、北大農学部事務長を最後に現役を退いて、70歳でエスペラントに出会う。画家の金森さんと共に現札幌エスペラント会長の切替さんからエスペラントを学ぶ。豊蔵さんも以前日本水彩学会に属していたから気が合ったのかもしれない。

夏はモイワ登山を日課にしており、冬はスキー楽しむという超健康体だったが、白内障と帯状疱疹に悩まされ、力尽きたが2006年5月17日付けて北海道エスペラント連盟を退会したいとの書状を頂いた。2005年6年の二年間で「罪と罰」を始めとし、8冊のエスペラント文学書を完読した豊蔵さんだったが、病にはかなり打撃を受けたようだった。所が少し長いが7年4月の手紙を引用する。

——95歳にもなり、会費も納めていない私にまでSES通信を送りくだされ感動しています。老人が何時までも「ぶらさがる」のは私自身で最も避けるべきで醜い、避けるべき事と信じていました。ところが受けるだけの生活と言うのは退屈でどうにもなりません。漱石の坊ちゃんでも5回になると鼻につきます。それでKorespondoを私にまで送って下さった事に引かれて一番単純な「アンネの日記」を引き出して見たところ「わかるんです」激しい感動が私を包んで呉ました。早速Tagolibro de Anne Frankを取り出して読み始めました。面白い。不明の言葉も前とそう違くない。辞書も引ける。そういう事で甚だ御迷惑とは思いますがEsperantistoの仲間に加えてください。会費等請求してください。私の「命の初夜」です。我儘を見せて申し訳ありません。Krespondadoして下さったことに甘えて——

新しく読み始めた Robinson Kurso は何と 3 日で 26 ページも読み進んだと喜びの報告を受け取った。

SES の例会にはここ数年、顔は出しませんでしたが、8 月「マルコポーロ」を読み始めた理由を「二中（現札幌西高校）の時、あだ名がペラゴリという世界史の先生が世界に始めて日本を紹介したのはベニスの商人マルコポーロだと教わったのをふと思い出した」からだそうでも日本人は酒を温めて飲み、猫の声で話をするというエピソードに興味を惹かれたそうです。

豊蔵さんはここ数年の間に旧約聖書、仏典、コーランの三大経典をエスペラントで完訳した。かつて一緒に学んだ私の仏典は豊蔵さんの枢に忍ばせていただいた、豊蔵さんなら漢籍の仏典よりもきっと解りやすいと思うのです。

豊蔵さん安らかにお休み下さい

「東方見聞録」を読んでみよう

SES 後藤義治

豊蔵さんが最後に翻訳をしていたのがマルコ・ポーロの東方見聞録（エス訳 *La Libro de la Mirindajoj au La Priskribo de La Mondo*）だ。マルコ・ポーロは中世ベネチア共和国の市民で 1254 年の生まれだ。彼は父ニコロと東方貿易に従事した商人だった。11 世紀末十字軍のシリア遠征に便乗して北部イタリアの諸都市を競って船団（Convoglio）を編成し、軍事力を背景に通商路線を開拓した。コンボイは黒海を縦断してクリミア半島にまで達していた。先々で商館を築き、それが程なく領事館に取って代わるといふ、国ぐるみの謀略でもあった。1295 年ベニスに帰還したマルコは世界を駆け巡った冒険者としてもはやされ「ホラ吹きマルコ」の異名をとる。が、また一方では金、銀、絹、香料等の新しい商圏の紹介者として評価された。アメリカ大陸の発見者とされる、コロンブスは 1492 年サンタマリア号で航海に出る前にマルコの見聞録を詳細に読んでいる。だが、マルコが書いたアラビア・マイルをイタリア・マイルに取り換え、アメリカ大陸をインドだと誤認したようだ。話は元に戻るが、ガレー船団の艦長指揮顧問官として、ジェノアとの海戦に出兵、大敗して牢獄につながる。この時、父から取り寄せた旅行メモをもとに、同房の物語作家ルスチケルロに口述筆記させたのが「東方見聞録」の祖本になった。マルコは単なる冒険家や旅行者ではなく商人だったから、商品の質、量、名称等は大変詳しく、特に国益を第一と考えたコンボイ、時の政府には価値の高い本ではなかったろうか。以下、紹介する 118 話は困難窮まる商品探しと、男なら天にも昇るような話の組み合わせになっている。

CXVIII Ci tie oni priskribas la provincon Tebet

Post tiuj kvin tagoj, oni eniras en rovincon vere tre ruinigitan, ĉar Mongu Ĥano ruinigis ĝin per milito. Estas tie multaj urboj kaj multaj vilaĝoj kaj vilaĝetoj tute difektitaj kaj ruinigitaj. Kaj dum almenaŭ dudek tagoj oni trairas dezertajn lokojn, kie vagas amaso da sovagaj bestoj, pro kio la traizado estas danĝera. Spite tion la vojaĝantoj el trovis rimedon kiel tiun ĉi.

Estas en tiu lando, kaj ĉefe apud la riveroj, bambuoj mirinde dikaj kaj altaj, kaj mi rakontos al vi kiel dikaj ili estas; ili ampleksas almenaŭ tri polmojn en la ĉirkaŭo kaj kvindek paŝojn en la longo, aŭ malmulte mankas, kaj de unu node al la alia, la distanco estas almenaŭ tri polmoj. Kaj mi diras al vi, ke la komercistoj aŭ aliaj vojaĝantoj, kiuj trairas tiun landon, kiam ili volas halti por tranokti, ili prenas da tiuj bambuoj kaj ili faras grandan fajron el ili; ĉar kiam ili fajras, ili eligas tiel fortajn krakadojn kaj tiel grandajn eksplodojn, ke la leonoj, kaj la ursoj kaj la aliaj sovaĝaj bestoj spertas tiel grandan timon, ke ili forfuĝas tiel foren kiel ili kapablas, anstataŭ ol postiri la karavanon, kaj kontraŭ nenio en la mondo ili aŭdacus proksimiĝi al tia fajro. Ĉar neniu loĝas tie tiuj sovaĝaj bestoj tiel obliĝis kaj se ne estus tiuj bambuoj, kiuj tiel forte knaras, certe neniu kuraĝus trairi tie.

Kaj mi ankoraŭ diros al vi, ĉar estas bone diri tion, kiel oni elfore aŭdas la bruon de tiuj bambuoj, kaj kiel ili tre timigas kaj kio okazas pri ili. Nun sciu, ke oni elektas ilin tute verdajn, oni faras grandan rikolton vespere, kaj oni multnombles metas ilin sur fajron el faskoj. Kiam ili estis tie jam de momento en tiu ardanta fajro, ili tordiĝas kaj splitiĝas ĉe la mezo terure bruante kaj farante tiajn eksplodojn, ke oni tre bone aŭdas ilin je dek mejloj en la nokto. Kaj sciu, ke tiu, kiu ne alkutimiĝis je tio, estas tute mirigita, tiel hororiga tio estas por la oreloj. Li eĉ povas perdi sian menson kaj morti pro tio. Sed tiuj, kiuj kutimiĝis ne atentis pro tio. Kaj pri tiuj, kiuj ne alkutimiĝis, ili devas je la komenco preni kotonon kaj zorge ŝtopi la orelojn, kaj poste bone bandaĝi la kapon kaj la vizagon, kaj kovri ilin per ĉiuj vestaĵoj, kiujn ili havas; tiamaniere pluvivas, ĉekomence, tiu, kiu ne kutimas.

Rilate la ĉevalojn, kiuj neniam aŭdis tion, kiam ili aŭdas tion, ili estas tiel violente teruritaj, ke ili rompas siajn ligilojn kaj aliajn ŝnurojn per kiuj ili estas ligitaj, kaj forfuĝas. Tio okazis al multaj personoj, kaj pro tio multaj senzorgaj vojaĝantoj iam perdis multajn bestojn; sed nun ili

百十八話 そこは千ベツト地方という

五日間旅すると噂の通り廢墟と化した集落に着く、それはモンゴル大帝が侵攻して殲滅したからだ。一帯は多くの都市、数々の村々や村落が損壊され跡形もない。更に少なくとも二十日間砂漠を通り抜けると、数え切れないほどの野獣がたむろしている、だから旅は極めて危険だ。にもめげず旅人は対処法を考え出した。

その国の主に川澗にはとてつもなく太い竹が群生している。どんなに太く大きいかお話ししましょう。太さは少なくとも手のひらの3倍はあり、長さは50歩少々、一節の長さは3尺近い。やり方をお教えしようこの地を通り抜けようとする商人や旅人たちが野宿する時、この竹を伐採して焚き火をする。火が燃え上がると竹はバリバリと爆裂音を出す。ライオンや熊や他の野生動物は恐れ慄いて旅団の後ろを覗うことなく、力の限り一目散に遠くへ逃げ去る。間違っても危険を犯して火に近づくものはいない。ここには人は住んでいないから、野生動物は倍増した。もし竹もなく爆裂音も出さないなら、誰一人ここを通り抜ける勇氣はなかったろう。

取って置きのお話をしよう。この竹がある事によってどの位遠くまで響くか、どんなに皆が驚くか、その結果がどうなるか。まづ青竹を選んで、日暮れに大量に取り込む、束から多めに火にくべる。燃え盛る火の中で暫くすると竹は振れ大きな音を立てて裂け、爆裂音を出す、夜なら10マイル先でも聞こえる。慣れない人なら恐怖に驚愕して打ちのめされる。肝をつぶし死ぬ人さえある。だが慣れさえすれば意にかえすこともない。綿を丁寧に耳に詰める更に頭や顔をバレージする、そして持てる限りの衣服で包み込む、こんな風にして生き延びるのだ。

爆裂音を聞いたことの無い場合は馬でも同じだ、耐えかねる恐怖にさらされ、馬は繫柵をぶち破り手綱をも引きちぎって逃走する。すでに多くの人々が経験済みで、注意を怠った旅人たちは過去に数多くの家畜を失った。だが、今は四足固定のチェーンがあり、彼ら

kunportas ferajn ĉenojn por ligi la kvar krurojn; ili same bandaĝas al ili la kapon, la orelojn kaj la okulojn kaj zorgoplene ligas iliajn kvar piedojn kaj tiamaniere ke, kiam la ĉevalo aŭdas la grandan bambuan knaradon, kvankam ĝi volas fuĝi, ĝi ne kapablas. Feliĉe kiam la ĉevaloj al kutimiĝis, ili ne plu zorgas pri tio.

Kaj kiam oni iris dum dudek tagoj tra tiu regiono, oni trafis nek gastejon, nek manĝaĵon, sed konvenas kunporti ĉian manĝaĵon por tiuj dudek tagoj, tiom por la homoj, kiom por la bestoj, kaj ĉiam renkontante tre ferocajn kaj tre malbonajn sovaĝajn bestojn, kiuj estas tre danĝeraj kaj timindaj. Sed poste oni trafas en sufiĉo vilaĝojn kaj vilaĝetojn al kroĉitajn ĉe la krutaj deklivoj de la montoj.

Por edzinigi la virinojn, ili havas plaĉan kutimon kiel mi rakontos al vi. Estas vere, ke en tiu lando, neniu viro kontraŭ nenio en la mondo prenus virgulinon kiel edzinon, dirante, ke ŝi valoras nenion se ŝi ankoraŭ ne kutimas kunkuŝi kun multaj viroj. Kaj tute vere; virino aŭ fraŭlino, kiu ankoraŭ kuŝis kun neniu viro, ili diras, ke la dioj malbone konsideras ŝin, pro kio la viroj ne zorgas pri ŝi kaj evitas ŝin, dum la aliaj, kiuj estas bone konsiderataj de iliaj idoloj, la viroj deziras ilin kaj amas. Kaj vi vidus kiel ili edziniĝas. Kiam viroj alvenantaj el iu alia lando trairas tiun regionon, muntis sian tendon apud vilaĝo aŭ vilaĝeto aŭ apudo iu alia domo, ĉar ili ne aŭdacus loĝi ĉe la tieuloj, tio ne plaĉas al ili, tiam la maljunaj vilinoj de la vilaĝo aŭ de la vilaĝeto, kiuj havas filinojn por edzinigi, kondukas ilin kaj kelkfoje dudekope aŭ tridekope, aŭ kvardekope; ili senĉese proponas ilin al la viroj, petegante ilin preni sian filinon kaj uzi ŝin tiel longe kiel ili restos. Kaj ili ofertas ilin al tiuj viroj, por ke ili faru sian volon kaj kuŝu kun ili. Kaj estas la junaj virinoj, kiuj ĝuas la plej grandan sukceson; la fremduloj elektas ilin por si kaj petolas kun ili kaj konservas tiel longe kiel ili volas; kaj la aliaj reiras hejmen tute konfuzaj. Sed ili rajtus forporti nenium en sian landon, nek malantaŭen, nek antaŭen.

Kaj kiam la viroj, kiuj bone ludis kun ili deziras reekvojaĝi, estas la kutimo doni malgrandan donacon, juvelon, ringon, iam medalon al la fraŭlinoj, kun kiuj ili petolis; ĉar tiel, kiam ili edziniĝos, ili povas prezenti la pruvon, ke oni amis ilin kaj ili havis amorantojn. Jen kial estas la kutimo, ke ĉiu fraŭlino havas ĉe la kolo pli ol dudek galanteriaĵojn aŭ medalojn, por montri, ke multaj amorantoj kaj viroj petolis kun ili. Tuj kiam knabino pergajnis medalon, ŝi alkroĉas ĝin antaŭ la brusto kaj iras tre kontenta kun sia donaco; ŝiaj gepatroj ricevas ŝin kun ĝojo kaj feliĉo.

は家畜の頭をバンテージし、耳と目を慎重に被い、四足を固定する
これ程のやり方でも始めは効き目が薄い、幸いに馬であっても慣
れればそれほど心配する事はない。

そこから、二十日間の行程は食料も旅籠もない所だ、人と家畜の
食料は携帯しなければならない。常に残酷無常の苦難と横暴な野獣
に遭遇し、いずれも大変危険でかつ恐ろしい。だがそれを越えると
桃源郷の村、男冥利に尽きる村落に辿り着く。

これからお話しするのは、娘たちを結婚させるためとてもよい風
習いがある。本当だぜ！この国では男は誰一人、界限の処女を妻に
迎えない。言ってみれば、もし彼女が今まで多くの男たちと寝た事
が無い様な女であれば、この女は何の価値もない。絶対本当の話だ
ぜ！どんな男ともまだ寝た事のない女や娘は「神々が彼女を性悪女
だと評価した」と言うのだ。だから処女には男どもは見向きもしな
いし、その女を避ける。一方彼らの神仏が良い評価を下している女
を男どもは追いかけて愛する。そして結婚したいと思う。ここへ来た
外国人の男たちが村や村の近くにテントを張る。地元の人をそばに
逗留すれば安全だからで、後はどうでもいいのだ。すると、村や村
落のヤリテ婆さんが彼女たちを結婚準備のために20人、30人また
は40人も連れ立ってやって来る。婆さんたちはすぐさま、吾が
娘に手を付けるようにお願いしながら娘たちを男に差し出す。そこ
に彼らが滞在している間中、婆さんたちは娘を男に提供する。男た
ちは望みどおり娘たちと寝る事ができ、若い娘たちは目一杯楽しむ。
外国人は好みの女を選び彼女たちと戯れる。彼らが望むまで何時ま
でも続く。求められない女はそそくさと家へ帰る。でも誰一人自国
へ連れて帰ることはできない、以前にもそうだったし、今後も変わ
らない。

男たちは散々遊んだ季節、再び旅に出ようとすれば、娘たちに小
さな贈り物をする決まりだ。宝石、指輪、何らかの記念品などを。
これは彼女が結婚する時に男とじゃれ合ったことを証明するためだ。
娘たちがそれを欲しいばかりに情人を持った。殆どの娘たちは首に
20個以上の装身具やメダルをかけているのは当たり前で、大勢の
情人や男たちと戯れた事を示すものだ。少女がメダルを手に入れた
ときすぐに胸元に掛け誇らしげに歩く。両親は娘を誇らしげに幸や
を持って迎え入れる。

第2回委員会報告] Protokolo de la 2-a Komitato Kunsido

日時：2008年11月1日（土）13:15～15:18

場所：札幌市北区北8条西3丁目 札幌エルプラザ2階 ミーティングルーム

出席：川合、後藤、佐藤英治、椿、横山、星田（記録）

欠席：阿部、佐藤不二雄、中田、大山口

議事

- *組織：会費未納者への督促文を次号 H. dHEL に出す。一括で支払ってくれる人に対して割引を考える。正会員4年分1万2千円を1万円とする（1月迄）
- *会計（財政）：業務引継ぎ中（佐藤英治 → 椿曜子）
- *広報（HP）：1998年以來のアクセス数 60604件。SES, TES（苦小牧）の活動、個人の原稿などを出している。第2掲示板は柴山 JEI理事長の投稿などで活発。yahoo の検索ではHEL第1掲示板「エスペラントよろず相談室」が1位。
- *メールマガジン：一千部台を維持しているが、やや減少傾向。読者の維持拡大を考えよう。
- *情報・宣伝：・北海道新聞9月9日札幌圏版に野本アイヌ語ペンクラブ会長の講演の記事。・一般むけのビラ・チラシを公共の場所（区民センター、NPO 法人、長生大学など）におくように計画する。
- *教育・研究：・SES 土曜例会はViktimoj, Vinberoj は「フラビッチの冒険」を読んでいる。・「エクスプレス・エスペラント語」を一般書店から買ったら、次に行ってみると5冊並んでいた。
- *図書：Ainaj Jukaroj の在庫、百部以上あります、まだあちこちから注文があり、時に宣伝してもよさそう。
- *機関誌：11月1日 Heroldo de HEL No.121発行
次号記事予定：アイヌタイムズ記事対訳（横山）、日本大会（和歌山）、世界大会（Rotterdam/椿）、k.a.
原稿依頼：今後、個人に原稿用紙を送って依頼することも考えます。
- *年間計画：札幌周辺で分布の厚い青年層にアピールする宣伝・募集を考えたい。
札幌ザメンホフ祭（SES）12月13日
次の委員会で5月合宿計画を具体化したい。
- *次回委員会
12月20日 13時から 札幌エルプラザ（場所未定：12月13日申し込み）
なお同日10時から 市民活動サポートセンター印刷室で機関誌印刷。

[編集後記/Redaktanto parolas ...]

- *この号は長い原稿が多くて準備した原稿がかなり次号廻しになりました。Danke ricevitaj, UK報告、ネットオークションで出たEsp. 古文書、学習関係等。
- *従来の経験で20頁を越えると郵便料が上がる（紙にもよりますが）ので、これを一応の限度と考えていた。Dankon pro la manuskriptoj! 臨時号でも？

北海道エスペラント連盟 会費/年

正会員 3000円（4年分一括払い込まれるときは1万円に割引きます）

購読会員 2000円、 家族会員 1000円